

# 絵葉書にみるパリ百年 万国博覧会と観光名所

生田 誠 (東京)

花の都、芸術の都と呼ばれるフランスの首都、パリ。今年には100年ぶりのオリンピック開催もあって、現地では大いに盛り上がりを見せているようです。

今回の展示では、前回オリンピックが行われた1925年前後の街の姿を絵葉書で紹介します。また、20世紀初頭に発行された、昔を振り返る「過去のパリ」絵葉書も展示します。

## 絵葉書にみるパリ百年 万国博覧会と観光名所

花の都、芸術の都と呼ばれるフランスの首都、パリ。今年には100年ぶりのオリンピック開催もあって、現地では大いに盛り上がりを見せているようです。今回の展示では、前回オリンピックが行われた1925年前後の街の姿を絵葉書で紹介します。また、20世紀初頭に発行された、昔を振り返る「過去のパリ」絵葉書も展示します。

### 1 パリ名所

まずは、パリを代表する観光名所を紹介しましょう。数えきれないほどあるパリ名所ですが、市内を流れるセヌス川の風景は外せません。美しい川の流れや橋とともに、古本好きにはたまらない名所だったブキニストの絵葉書の定番でした。そして、東西を貫くメインストリート、シャンゼリゼ通りも有名ですね。紹介する絵葉書は「EN FLANANT」(パリ散歩、逍遙)というシリーズのものです。

### 2 エッフェル塔と日本人

パリを語る上で、まず取り上げられるのはエッフェル塔で、日本人にゆかりの深い場所でもあります。今回は、この名所を訪れた日本人が故郷に送った絵葉書を中心に展示します。エッフェル塔は、フランス革命100周年を記念して1889(明治22)年に開催された、万国博覧会の最大のモニュメントとして建てられました。そして、1900(明治33)年に開かれた次のパリ万博では、多くの日本人がこの街を訪ねています。その中には、夏目漱石や川上音二郎、浅井忠、竹内栖鳳らの著名な人々が含まれていました。そうした有名人ではありませんが、当時の日本人渡航者たちが送った家族や友人に送った16枚の絵葉書を、宛名面とともに紹介します。

### 3 アールデコ博覧会

3番目のテーマは、1925(大正14)年に開催された「アールデコ博覧会」を選びました。約100年前のこの博覧会は、会場、パビリオンだけではなく、パリの街自体が美しく飾られる魅力的なイベントとなりました。「アールデコ」という言葉は、このときに生まれたといわれています。セヌス河やエッフェル塔を彩る夜景は、いま見てもわくわくするようなもので、夜景にスポットを当てました。当時の夜景の美しさは、ミレニウム(2000年)の際のパリに美しさに匹敵するものだったと感じています。

### 4 過去のパリ(「PARIS VÉCU」を中心に)

4番目の展示テーマは、「過去のパリ」にしました。筆者が収集しているパリの絵葉書の中には、「PARIS VÉCU(体験されたパリ)」というものがあります。これは、19世紀のパリの風景や風俗を写したシリーズで、パリの街や人々の多種多様な側面が見られるものです。後半では、パリを代表する交通機関である地下鉄(メトロ)の工事風景などを集めました。パリで最初の地下鉄(1号線)が開通したのは1900(明治33)年。それはぎりぎり19世紀で、日本では明治時代でした。



20世紀初頭のパリの地図 (Wikimedia Commons より)